



今回の筆者

森田 聡美

岡谷市湊出身。

2009年岡谷市役所入庁。10年から岡谷蚕糸博物館学芸員。調査・研究活動や博物館資料の整理、企画展や館内案内、小中学校への力イコ学習などを担当している。

港問題、アメリカの人造絹糸の

シにもわたります。

開発話題、全国各地で起こるス

「桑畑のはてに美し新校舎」

トライキと製糸工場の労働問

これは大正14年に建てられた

題、などを論じる投稿がみられ

新校舎を読んだ俳句です。「白

ます。また、生徒たちは文学に

亜の殿堂」と呼ばれた、諏訪地

も親しみ、詩や俳句の投稿をし

方初のコンクリート造り校舎

ています。部活動の報告には熱

(写真2)。当時誰もが見上げた

がこもり、特に野球部は何へー

であろうこの風景は糸都岡谷の

かれています。例えば大正12年

度の卒業生の就職先は、小県郡

山十組田中工場、金万小松組製

糸所、福島県郡山市日東紡績株

式会社、片倉製糸カクキ尾澤支

店、兵庫県和田山小口組製糸

場、など全国各地の大製糸工場

の名前が並んでいます。

大正2年と昭和10年の進路を

まとめたデータを見てみると、

卒業生は大正2年の17人、数十

人いて、最も多い年は昭和5年

の87人です。出身者のほとんど

は岡谷を含む諏訪郡の出身で、

卒業生の42%は蚕糸業・製糸業

# 諏訪蚕糸学校「校友会誌」に 書かれた生徒たちの青春

ただいま開催中(〜11月14日)の企画展「製糸業と諏訪蚕糸野球」では、創立100周年を迎えた長野県岡谷工業高等学校と、(一社)岡谷工業高等学校同窓会の所蔵している資料をお借りして展示しています。

その中に「校友会誌」があり(写真1)、諏訪蚕糸の生徒たちの生の言葉が残されています。関東大震災の後の生糸の輸出

モダンであった、当時の空気が詠まれているように思います。

10代の諏訪蚕糸学校の生徒が、これほどまでに蚕糸業界の問題に精通し、自分の考えや日々の想いを紡ぎだす

美しい言葉を持つているのかと、驚かされる内容です。

また校友会誌には各年の卒業生の進路も書

かれています。例えば大正12年

度の卒業生の就職先は、小県郡

山十組田中工場、金万小松組製

糸所、福島県郡山市日東紡績株

式会社、片倉製糸カクキ尾澤支

店、兵庫県和田山小口組製糸

場、など全国各地の大製糸工場

野球部に所属していた生徒の中に、一握りではありませんが、

野球の道を歩んでいた生徒もいます。例えば、諏訪蚕糸学校野

球部員として昭和5年夏の甲子園で準優勝したピッチャー中村

三郎は、明治大学から社会人野球を経てプロ野球選手となり、

大東京軍、ライオン軍、名古屋軍の3球団で活躍しました。名

古屋軍所属中に応召し、太平洋戦争で戦死しています。東京ド

ーム前の戦没野球人を慰霊する鎮魂の碑には、澤村榮治らと

ともに中村三郎の名前が刻まれて

するなど、スポーツ・文化を愛してきたことと、思っています。蚕糸業を支えてきた卒業生の方々に敬意を抱くとともに、こうした

方々の中にも、戦争により命を落とされ、輝かしい将来が奪われてしまった方がいらつしやることを知ると、悔しい思いでいっぱいになります。

※参考

「長野県諏訪蚕糸学校生徒会誌(大正10年、昭和3年)」「岡谷工業高校70年史」「球道―岡工硬式野球部100年」岡谷蚕糸博物館紀要14号

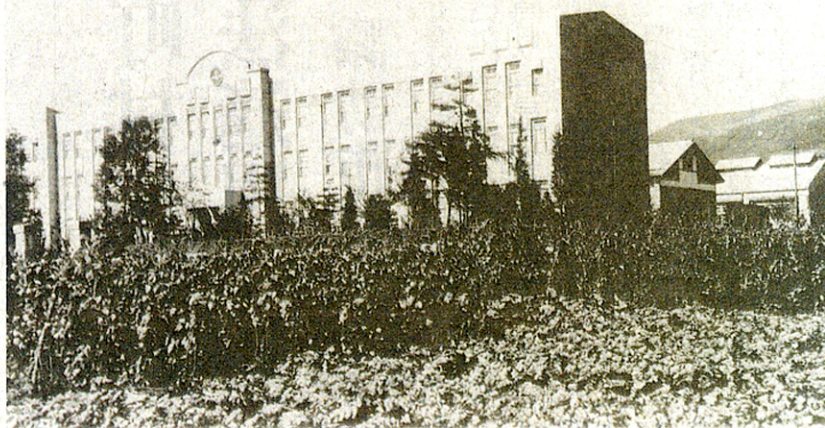


写真2 大正14年完成の諏訪蚕糸学校校舎手前には桑畑。当館蔵

↑

蚕糸と部活動の両道でひたむきに学んできた諏訪蚕糸学校の生徒たち。卒業後、全盛期の製糸工場の第一線で働き、工場勤務の間には野球を

愛

する

など、

スポーツ・文化を愛

してきたことと、思

っています。蚕糸

業を支えてきた卒業

生の方々に敬意を抱

くるとともに、こ

うした方々の中にも

、戦争により命を

落とされ、輝かしい

将来が奪われてしま

った方がいらつし

やることを知ると

、悔しい思いでい

っぱいになります。

※参考

「長野県諏訪蚕糸学校生徒

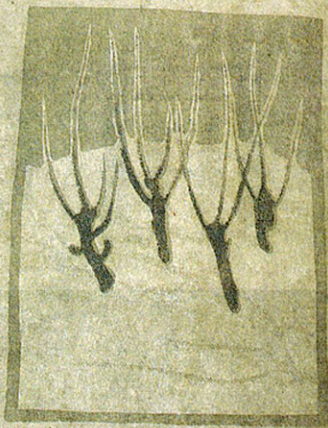
会誌(大正10年、昭和3年)

」「岡谷工業高校70年史」

」「球道―岡工硬式野球部100

年」岡谷蚕糸博物館紀要14号

写真1 大正12年3月発行の校友会誌第8号 表紙絵は当時教員であった清水多嘉示の作。岡谷工業高等学校同窓会蔵



長野県諏訪蚕糸学校校友会誌

写真1